

台湾通信

イワシノアタマモ・・・

文 高雄事務所 坂田 / 写真 高雄事務所 大辻

「日本人は、信仰心が薄い」などと、外国から揶揄されることがよくある。

本当に信仰心が薄いのだろうか？

確かに、初参りで神社に行き、結婚式を教会で挙げ、お葬式はお坊さんに・・・

また、行事にでも、節分、桃、端午の節句、クリスマス、ハロウィン訳が分からない。

そんな環境で育った私も上述のルートをとどっているのだ。恥ずかしい話だが、仏様も日本へ帰国した時にお線香をあげるぐらい。あとはホットケである。

台湾にある廟に行ってみると。「台湾人は信仰心があつい」と実感させられる。

私と同じぐらい。いや小中学生がおじいちゃん、おばあちゃんに連れられて、お線香やろうそくを手向け、ひざまずき一様に三回お辞儀をしている。

私も、せっかく霊験あらたかな廟に来たので、お参りをしていこうと思い、お線香とろうそくを頂き「いざ」と張り切ったものの、どこにろうそくを立てればいいのか、お線香はここに全部立てていいのか、紙のお金は・・・？そう、全然わからないのだ。

何とかご本尊にたどり着き、わき目も振れず台に

ひざまずいたが、ふと考える。手は上を向けるの？お願いしてから三回お辞儀するの？お線香は頭の前？それとも・・・

結局私は、右斜め前にいた3歳ぐらいの男の子をちらちら見ながら、見よう見まねでお願いごとをしてその場を後にした。

台湾の神様も、形式よりも熱心なお願いを聞き入れてくださることを期待しつつ、また、次回も見よう見まねになっちゃうんだろかなあと思いつつ、見よう見まねの姿を見られ、やっぱり日本人・・・と思われているだろうなあと感じつつ、今週末も大好きな廟めぐりをしよう！



吉安慶修院（花蓮）



佛光山（高雄）



新港奉天宮（嘉義）